

第13回学術集会報告

第13回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

会長 中元 秀友

埼玉医科大学総合診療内科 教授

2023年3月18日・19日の2日間、第13回学術集会は大宮ソニックシティ(さいたま市)にて開催いたしました。牧田 茂先生(埼玉医科大学国際医療センター心臓リハビリテーション科教授)、岡田浩一先生(埼玉医科大学腎臓内科教授)、長谷川 元先生(埼玉医科大学総合医療センター腎・高血圧内科教授)を副会長、小林威仁先生(埼玉医科大学総合診療内科准教授)を事務局長として開催準備をまいりました。

他の多くの学会同様、COVID-19の動向を注視しながら準備を進めておりましたが、幸いにも COVID-19の規制緩和が見直されたことが追い風となり、懇親会の開催は見送ったものの、COVID-19以前の学術集会により近い形で執り行うことができました。

本学術集会はテーマを「連携で生きる腎臓リハビリテーション」とし、これは腎臓リハビリテーションが多職種チーム医療により生きてくることから、チーム連携を話題の中心に考えたもので、多くの参加者と活発な議論ができることを期待に込めて定めました。

今回の学術集会には、1,485名の方々にご来場いただきました。また、プログラムにつきましては、大会長講演、理事長講演、特別講演、会長企画シンポジウム、学術委員会企画、シンポジウム、ジョイントシンポジウム、国際腎臓リハビリテーション学会、教育講演、よくわかるシリーズ、HOW TO SESSION と多岐にわたる内容を企画し、一般演題については181演題のご登録をいただいて、無事盛況のうちに終了いたしました。

2022年の診療報酬改定において、透析患者の透析リハビリテーションに新たな加算が認められるという大きな進歩の中で、これからの透析リハビリテーションのあり方についても議論ができたのは、大変有意義であったと考えております。

最後に、本学術集会開催の機会をいただきましたことに大変感謝申し上げます。

今後も腎臓リハビリテーションの一層の進歩と普及を願うとともに、本学会の益々の発展を祈念いたします。

